

激動の時代の終わり

田中角栄内閣以後も、自民党の単一支配は崩れなかった。1989年1月、昭和天皇が崩御し、元号は平成と改められるが、この間の日本の政治は、経済・社会の安定に支えられて、大きな変化を伴うことなく、小さな波瀾を繰り返した。時間的にそれほど隔たりをもたないこの時代の評価は、後世に評価を委ねなければならない。

○ 1972～89年の内閣

● 腐敗政治の露呈

<第1・2次田中角栄内閣 | 1972年7月～1974年12月>

1972年、⁽¹⁾ _____ が「日本列島改造論」を掲げて内閣を組織した。

【日中国交正常化】

1972年、⁽²⁾ _____ 調印

…日本側代表の(1)と中国側代表の **周恩来** が、北京で日中国交正常化を声明

…中華人民共和国を「中国唯一の合法政府」と認め、**日華平和条約**を破棄

…調印時の外務大臣は **大平正芳**



図1 田中角栄

【列島改造政策】

交通網整備などの列島改造政策は、地価の高騰を引き起こした。

→これに⁽³⁾ _____ による原油価格の高騰が重なり、

⁽⁴⁾ _____ と呼ばれる激しい物価上昇が発生した。

⇒政府が物価上昇抑制に金融を引き締め、1974年、戦後初のマイナス成長となった。



図2 日本列島改造論

【収賄容疑】

首相の政治資金調達をめぐる疑惑⁽⁵⁾ _____ が明るみに出て、

1974年、(1)内閣は総辞職した。

<三木武夫内閣 | 1974年12月～1976年12月>

1974年、**三木武夫** が「クリーン政治」を掲げて内閣を組織した。



1976年、⁽⁶⁾ _____

…ロッキード社が航空機売込みを目的に、日本の政界に賄賂を贈った汚職事件

…賄賂を受け取っていた⁽⁷⁾ _____ 前首相らを逮捕



1976年、自由民主党が衆議院議員総選挙で衆議院の過半数を割り込んだ。

⇒この大敗の責任をとり、三木内閣は総辞職した。



図3 三木武夫

● 保革伯仲から保守の再安定へ

<福田赳夫内閣 | 1976年12月～1978年12月>

1976年、自由民主党総裁の**福田赳夫**が内閣を組織した。



1978年、⁽⁸⁾ _____ 締結

…1972年の日中共同声明をもとに、日中両国の不戦と友好を約した条約



図4 福田赳夫

<第1・2次大平正芳内閣 | 1978年12月～1980年7月>

自由民主党総裁選の結果、1978年に新総裁大平正芳が内閣を組織した。

大平は、⁽⁹⁾ _____ による1979年の第2次石油危機に対処した。



図5 大平正芳

<鈴木善幸内閣 | 1980年7月～1982年11月>

1980年の衆参同日選挙の結果、自由民主党は安定多数を回復した。

⇒同年、選挙中に急死した大平の後継の鈴木善幸が内閣を組織した。



図6 鈴木善幸

●行財政改革

<第1～3次中曽根康弘内閣 | 1982年11月～1987年11月>

1982年から、⁽¹⁰⁾ _____ が内閣を第1～第3次と組織した。

【日米韓関係の緊密化と防衛費の増額】

防衛費を増額し、日本列島の「不沈空母」化を目指した。

【行財政改革】

⁽¹¹⁾ _____ (現NTT)・専売公社(現JT)・⁽¹²⁾ _____ (現JR)を民営化した。



図7 中曽根康弘

●平成の始まり

<竹下登内閣 | 1987年11月～1989年6月>

1987年、竹下登^{のぼる}が内閣を組織した。

【改元】

1989年1月7日、昭和天皇が崩御し、平成と改元された。

【新税の導入】

1989年、税率3%の消費税を導入した。

【疑獄事件】

リクルート社が政界要人に賄賂を贈った事件⁽¹³⁾ _____ が発覚し、消費税導入への反発も併せて、竹下登は総辞職した。



図8 竹下登



図9 「平成」の発表

○経済大国「日本」

●バブル経済

第1次石油危機後、日本は省エネ・減量経営を図り、第2次石油危機も乗り切った。

⇒1980年代、日本は欧米と比べると高い成長率を維持し、安定成長を続けた。

日本の貿易黒字の拡大は、欧米との間に⁽¹⁴⁾ _____ を起こした。

⇒アメリカでは、日本製自動車を叩き壊すなどのジャパン＝バッシングも起こった。

1985年、⁽¹⁵⁾ _____ のドル高是正・円高加速で、日本の輸出は減退した。

⇒しかし、日本は内需の拡大に支えられ、景気を回復した。

⇒内需景気は、地価・株価の暴騰とともに進行し、⁽¹⁶⁾ _____ と呼ばれた。



図10 ジャパン＝バッシング